

今月の星空



川口市立科学館
Kawaguchi Science Museum



tel 048(262)8431

11 月 (2026 年)

中旬 20 時頃



星図の見方

自分が見ている方角を
下(東の空を見るときは
東を下)にして、頭の上
にかざして見ます。

※バイエル符号(ギリシャ
文字の α や β 等)が付いた
星は秋の星座の主な 2 等星



図 アンドロメダ銀河(M31)
提供: 国立天文台

月 齢 ①下弦 2 日、●新月 9 日、◐上弦 17 日、○満月 24 日

惑星情報 [水星] 日の出前 東(おとめ→てんびん座 0→-1 等)※15 日~29 日頃

[金星] 日の出前 南東(おとめ座 -4→-5 等) [火星] 日の出前 南東→南(しし座 1 等)

[木星] 日の出前 南東→南(しし座 -2 等)

[土星] 夜のはじめ頃 南東→南(くじら座 1 等)

☆神話に登場する秋の星座~アンドロメダ座とカシオペヤ座~

秋の星座が見頃です。特に市街地からでも見つけやすい 2 等星の多い天頂から北側の空に注目です。その星座の多くはギリシャ神話の「古代エチオピア王家の物語」に登場します。まずは、最もたどりやすい形のカシオペヤ座。星図のとおり、3 つの 2 等星 (α 、 β 、 γ) と 2 つの 3 等星が W 形 (この時期は M 形に見える) に並びます。神話では古代エチオピアの王妃であり、娘の美しさを自慢するあまりに神の怒りを買ってしまうエピソードがあります。そのカシオペヤの娘が王女アンドロメダです。この星座は秋の四辺形からたどることができ、ペガサス座 β からアンドロメダ座 $\alpha \rightarrow \beta \rightarrow \gamma \rightarrow$ ペルセウス座 α へと、天頂から北東へ 5 つの 2 等星がほどよい間隔で連なる様子が印象的です。この星座にある有名な天体は、王女の美しさを思わせるアンドロメダ銀河 (M31)。肉眼で見える最遠 (約 250 万光年) の天体です。

☆アンドロメダ銀河の距離とケフェウス座デルタ星

カシオペヤ座の隣には、アンドロメダの父であるケフェウス王がモチーフのケフェウス座があります。そこにあるデルタ星は、明るさが規則的に変わる変光星であり、この星と同じ特徴を示す星をセファイド変光星 (またはケフェウス座デルタ型変光星) と呼んでいます。「宇宙の灯台」に例えられるその特徴は、その星の変光周期を調べるだけで距離を割り出せる点にあり、銀河など遠方の天体の距離の算出に使われます。1920 年代、天文学者のエドウィン・ハッブルは、アンドロメダ銀河 (当時は大星雲と呼ばれた) の中にセファイド変光星を発見し、この天体が天の川銀河の外にあることを示しました。

☆中旬の火星と木星の接近に注目

この時期、宵の南の空で目立っている土星は、夜中を過ぎる頃、西の低空へ移ります。その頃、東の空には火星と木星が昇ってきています。今月はこの 2 つの惑星の見かけの位置が近く、位置の変化の大きい火星が日に日に木星に近づき、すれ違うように離れていきます。特に 16 日には約 1.2 度角 (満月 2 つ分ほど) まで接近します。2 等で目立つ木星を目印にすると、すぐ近くに 1 等で赤く輝く火星も見つかるでしょう。また、夜明け前の東の低空では、金星 (明けの明星) が見られるようになりました。